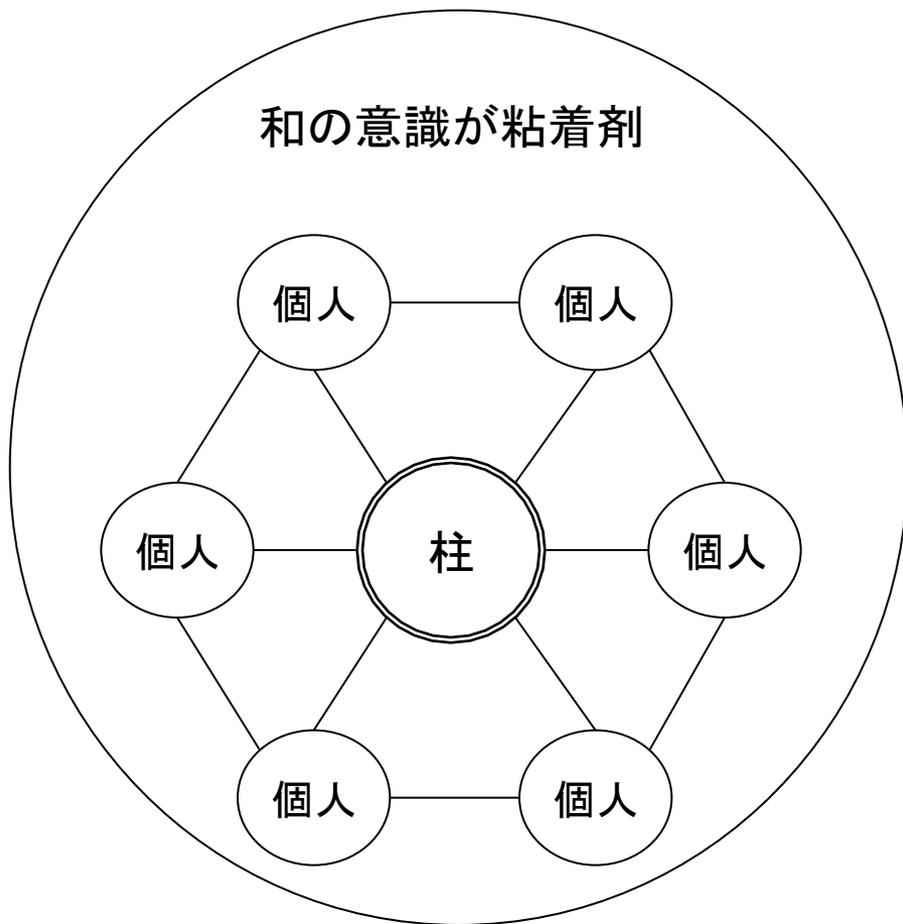
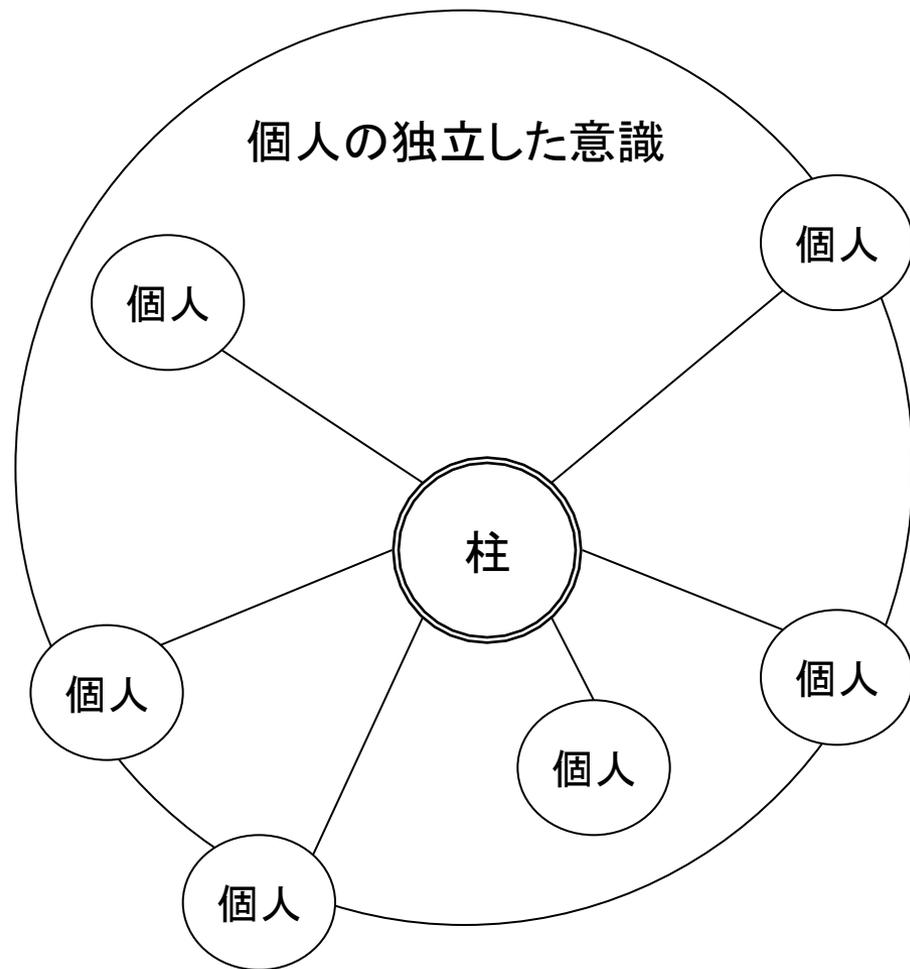


家族的な和を構成する集合体と独立した個人の集合体

和の意識が粘着剤



個人の独立した意識



梵我一如(ぼんがいちによ)とは、梵(ブラフマン:宇宙を支配する原理)と我(アートマン:個人を支配する原理)が同一であること、または、これらが同一であることを知ることにより、永遠の至福に到達しようとする思想。古代インドにおけるヴェーダの究極の悟りとされる。不二一元論ともいう。

梵は神ではなく、あらゆるところに始めから存在する生命の源と考えられている。また人間が梵を吸収することにより生命力が増すという思想もある。仏教では、梵が人格をともなって梵天として登場するが、本来は、自然そのもの、あるいは偏在する原理、または真理といったものである。一方、我(アートマン)とは、身体の中であって、他人と区別しうる不変の実体(魂のようなもの)として考えられている。

ヴェーダの究極の解脱とは、この個人の実体としての我が、宇宙に偏在する梵と同一であることを悟ることによって、自由になり、あらゆる苦しみから逃れることができるとする。